
日本科学者会議 京都支部ニュース

5月号 No. 471
2023年5月15日発行

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町95-3 延寿堂南館3階

Tel/Fax : 075-256-3132

E-mail : jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL : <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/jsa-k/>

ゆうちょ銀行振替口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：01050-6-18166

ゆうちょ銀行総合口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：14480-2800181

上記総合口座を他金融機関からの会費振り込みの受取口座として利用される場合は以下の内容を指定して下さい。

店名：四四八（読み ヨンヨンハチ） 店番：448 預金種目：普通預金 口座番号：0280018

・・・・・・・・ 目 次

- ・『日本の科学者』読書会3月例会(4/24)の報告
 - 「3月号特集:心理学から考えるジェンダー平等と平和」（清水民子）..... 2
- ・原発ゼロをめざす京都ネットワークによる
 - 若狭湾原発の安全に関する京都府への申し入れの報告（前田耕治）..... 3
- ・「生かそう憲法、守ろう9条憲法集会in京都」(5/3)報告（竹中寛治）..... 6
- ・京都支部第57回定期大会報告(5/14)（前田耕治）..... 7
- ・支部主催行事案内 8
- ・支部幹事会だより 8

<新年度会費の早期納入のお願い>

4月1日から新しい会計年度が始まりました。先月同封しました郵便振替用紙に記載の金額が請求額になります。この郵便振替用紙を使って納入をお願いいたします。過年度の未納会費がある方は、その分も請求させていただいております。なお、全国本部への会費納入は、月ごとに登録支部会員全員の本部会費を、その月までの既納入者の会費で納入していますので、早期に会費納入がないとやり繰りが大変なこととなります。

今年度会費の 早期納入にご協力くださるよう切にお願い申し上げます。

（支部財政担当・細川）

ご不明な点につきましては、支部財政担当幹事・細川孝宛にメールでお尋ねください（Emailアドレスは、hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp）。

『日本の科学者』読書会1月例会(4/24)の報告

12月号 特集：心理学から考えるジェンダー平等と平和

4月24日(月)14:00～16:00オンラインで開催された。参加者8名(幹事3名, 一般会員5名, 女性会員4名, 心理学系会員4名)。

本特集の編集を担った客員編集委員・伊田勝憲氏より, 5論文の執筆者の所属する心理科学研究会ジェンダー部会の紹介と各著者への執筆依頼内容の詳しい説明が

あった(伊田氏による別稿の掲載を予定)。

清水は5論文の概略紹介として以下の表を提示した。

表1 ガルトゥング「平和学」により分類を試みた5論文のテーマ・資料・考察

形態 → レベル↓	直接的暴力	構造的暴力 制度	文化的暴力 思想・文化	平和に向けて ジェンダー平等へ
メガ 地域・地球				
マクロ 国家・民族 間	沼田：アレクシエーヴィチによる女性兵士体験語り		ケアの倫理・愛が戦争に利用される危険	ケアの倫理 アレクシエーヴィチ 著作実践の意義
メゾ 社会		田口：ジェンダー平等後進国日本 男性優位社会 派遣労働, 不安定雇用	田口：学校文化のジェンダー差別 青野：男性社会・セクハラとの格闘	青野：平和運動へのライフ・ヒストリー 田口：平和教育・キャリアデザイン教
ミクロ 個人・個人 間	松並：親密関係暴力 鈴木：家庭内暴力		依存的恋愛観(松並) 家庭内ジェンダー観 パターンリズム	鈴木：女子少年院の矯正教育実践 (自己の確立にむけて)

瓜生淑子氏によるコメント「著者たち自身の女性としてジェンダー差別への抵抗のなかでつくりあげてきた論述だと思う。「ケアの倫理」が危ないという指摘(沼田)があるが, 現代も「育休」という女性にやさしいといわれる制度が乳児の世話は女性がするものという見方を強め, 足もとを掘りくずされる現実があるのではないか」。

以下, 出席者の発言を列举する。「勤務する大学には2～3割の女子学生がいるが, 女性教員は5%と少ない。修士課程にも2割弱はいて博士課程に進むが, 研究者としての就職はほとんどない。最近, 「ひきこもり」「不登校」学生が女子に増えてきているとき, 懸念している, 「暴力予防教育プログラムとはどのようなものか?」——「(方法はいろいろあるが)自己理解・他者理解を強める

方向性が大事」,「日常のなかにもジェンダー問題があると理解」,「青野論文から思いついたのが塩沢美代子『結婚退職後の私たち』(岩波新書, 1971年). 製紙工場で働き, 労組活動も経験した後に結婚退職. 調査時には主婦だが, 社会のことに関心をもってやることはやる, 選挙には必ず行くという人たちが育っていた」,「東日本大震災後, 関西に避難してきた人々の聞き取り調査をしたが, 『語ること』のもつ意味(経験を整理する)は大きい. 聞き出すこと, 手法の大事さも感じた」,「アレクシエーヴィチ(沼田)のひとりひとり聞き取って, 語った人の力が心に響いた」,「30年前, ノルウェイに行き, 男女平等に感銘, 日本は30年間変わっていないと感じる. 子の世代, 孫の世代の教育の問題. 私学に行かなくては・・・とか. ノルウェイの『いつでもやりなおせる』社会, ジェンダー平等だけでなく, 難民問題など多様性の尊重, 人間性を育てることが望ま

れる」,「道德教育におけるジェンダー問題として, 先行研究では教科書教材の主人公は男性が64%, スポーツ選手だと半々, 女性はナイチンゲール, ヘレン・ケラー, マザー・テレサのみ. 自身の研究では80%が男性. 『新・性別役割分業』といわれるものでは共働き家庭でありながら, 父親は何もせず, 母親は家事と高齢者介護で職場では昇進を断る姿が描かれている(『社会参画』領域). LGBTQについて『心のノート』の記述ではく異性を愛するのは自然・・・>とあり, <性的同一性障害>(現在はこの見方は取らない)の記述もあり, 指摘により修正された」.

今回, 特集テーマの視座と関連する心理学分野を中心に一般会員の参加, ジェンダー問題にかかわり女性会員の参加を多く得られたことを特筆したい.

(文責・清水民子)

原発ゼロをめざす京都ネットワークによる 若狭湾原発の安全に関する京都府への申し入れの報告

4月27日に, 原発ゼロをめざす京都ネットワークを構成する各団体の代表が揃って, 京都府原子力防災課を通じて, 下記の申し入れを行った. 参事を含む2名の職員が対応した. 京都総評議長の梶川氏が申し入れの要点を, 1) 高浜4号機の事故対応, 2) 老朽原発の稼働阻止, 3) GX法案への反対表明, 4) UPZ(30km圏内)住民の避難計画の4点にわたって説明し, その後, 出席者からの質疑が行われた. 制御棒の落下事故を起こした高浜原発に対する対応としては, 京都府は関電から独自の説明を受けたうえ

で徹底解明の指示を出したという説明があったが, 関電の説明以上の深い原因究明には至っていない. UPZ内の地域協議会が機能していない問題やUPZ以外の地域の防災対策が進んでいない問題が指摘され, 原発立地自治体でない京都や滋賀などの周辺自治体を守る法規的基盤の整備を国に要請することが喫緊の課題であることを強調した. JSAの代表として, 自治体主催の対策会議や協議会に研究者や専門家を加えることの重要性を訴えた.

(文責・前田耕治)

(以下、申し入れ文)

2023年 4月27日

京都府知事 西脇 隆俊 様

関西電力高浜原発4号機での事故の原因糾明と稼働中止、および、老朽原発（高浜原発1・2号機、美浜原発3号機）の延長稼働に反対を表明してください。

原発ゼロをめざす京都ネットワーク共同代表世話人	
京都地方労働組合総評議会	議長 梶川 憲
京都民主医療機関連合会	会長 中川 洋寿
京都府商工団体連合会	会長 久保田 憲一
新日本婦人の会京都府本部	会長 魚山 栄子
京都母親連絡会	会長 中尾 牧
自由法曹団京都支部	幹事長 福山 和人
日本科学者会議京都支部	代表幹事 前田 耕治

府民の命と暮らしを守るためのご奮闘に敬意を表します。

今年3月で福島第一原発事故から12年を迎えましたが、いまだ原子力緊急事態宣言は解除できず、原発事故は収束できていません。放射能汚染水の発生を止めることができないまま、轟々の反対の中、海洋放出が強行されようとしています。原子力発電は、事故確率の高さ、その被害の深刻さ、事故処理の困難さ、使用済み核燃料の処分・安全管理の困難さなど、現在の科学技術で制御できるものではないことは明らかです。

にもかかわらず、関西電力は、この間、住民の不安や反対の声に背を向けて、40年を超える老朽原発である美浜原発3号機を稼働させ、高浜原発1・2号機なども稼働させようとしています。

同時に、政府は、60年超の老朽原発の運転や原発の新增設を認める「原発回帰」の方針を決定し、これをふまえた「GX脱炭素電源法案」を国会に上程し、原子力規制委員会の委員の反対をも押し切って、経済産業省を中心にした原発推進の体制へ回帰しようとしています。

私たちは、これまで、国の再稼働の根拠である新規制基準そのものが事故の発生を前提にしており、万が一にも事故はあってはならないという原発の安全性が保障されていないこと、しかも事故の際の住民避難計画の実効性が原発規制の条件から外され、住民の命より稼働が優先されていること等を指摘し、原発再稼働は到底認められないことを主張してきました。しかし、今般の原発回帰の方針は、この課題のある規制をもないがしろにして、ひたすら原発稼働を加速させるものとなっています。

通常でも、原発は事故だらけです。1月30日には、高浜原発4号機で異常が検知され、自動停止しました。原発の心臓部に当たる制御棒の落下というあり得ない危険事故が発生しました。「定期検査」を済ませ、12月1日から営業運転を始めたばかり

りだったことから、事態は深刻です。大事故につながれば、福島原発事故の再来となる深刻な被害が広がることは明らかで、危険な電源に頼ろうとする「原発回帰」は、どんな理由からでも認められません。

40年を超える老朽原発は、京都府から極めて近距離に位置しています。これまでに再稼働している原発を含め、地震や津波などによって複数の原発が同時に事故を起こすことは容易に想定され、停止中の安全を確保するための避難計画すら実効性の確保に至っていません。また、国が被ばくの低減に効果があると強調する屋内退避についても、長時間続ければ内部被ばくの低減効果がほとんどなくなることは、規制庁が委託した研究を通して明らかにされています。到底、府民の安全・安心の確保はできません。

貴職は、令和3年4月28日付の声明「原子力発電所の安全確保対策等について」の中で、高浜原発・美浜原発などの30km圏内に、立地県を上回る京都府民が居住しているにも関わらず再稼働の手続きから除外されていることや、避難計画の実効性や安全確保対策に課題があることを指摘されています。

さらに、「GX脱炭素電源法案」は、原子力基本法に「国の責務」を追加し、原発永続化の法的枠組み作るものです。これは、原発の諸問題が深刻化しても、再生可能エネルギー拡大で原発が不要になっても、国の保護・延命策を講じることになり、「原子力に依存しないエネルギー体制の構築」を求める貴殿の声明とも矛盾します。

近くに水源である琵琶湖があり、UPZ圏だけでなくPAZ圏までも抱える京都府の知事として、運転開始から40年超えの危険な老朽原発の延長稼働を、これまで容認されていませんでした。国と関電の新たな動きの下で、以下の点での対応を要請いたします。

記

1. 高浜原発4号機の事故について、京都府独自の検証を行い、稼働中止を要請してください。
2. 高浜原発1・2号機、美浜原発3号機など、老朽原発の稼働に対し、反対の表明をしてください。
3. 「原発回帰」の政府の方針に対し、原発の被害地元として、異議を申し出てください。貴職の声明「原子力発電所の安全確保対策等について」（2021年4月28日）に沿った対応を強く国に要請してください。
4. 貴職および自治体で、安定ヨウ素剤の事前配布を含め、実効性のある避難計画の確立をすすめてください。また、国に対して、避難計画への責任と再稼働要件に避難計画の確立を加えること、また、UPZ圏の外側についても、対策対象とするよう要請してください。

「生かそう憲法、守ろう9条憲法集会 in 京都」の報告

「生かそう憲法、守ろう 9 条憲法集会 in 京都」が 5 月 3 日、円山公園音楽堂で開催されました。主催は、憲法 9 条京都の会、9 条改憲ノー全国市民アクション・京都。集会に向けた実行委員会には日本科学者会議京都支部も参加して、実行委員会の方々とともに集会に向けて何度も集まり議論して、参加者を多く募ることをベースに、講師や発言者の確定、集会決議案の議論確定等を行い、当日は午前から準備に入り、集会成功に取り組みました。この点では、他の多くのとりくみも同様に、主体者である市民の方々への集会参加を呼び掛けること、能動的に働きかけることが運動の基本であることを毎回感じさせる手作りの運動です。

集会参加者は今回、2000 人を超えました。これは、憲法をめぐる、9 条のもとで政府をして戦後一貫して専守防衛に限定するという立場（「憲法の本質にのっとった受動的な防衛戦略」）を維持させてきた状況が、岸田内閣が「日米が協力して対処して」相手国領内への敵基地攻撃能力を保持することを柱とする安保 3 文書を閣議決定（2022 年 12 月 16 日）したことによって、アメリカと一体となって憲法の恒久平和主義に基づく戦後日本のあり方を根本から変えてしまおう

とする暴挙に憂慮し、9 条の趣旨を守るとの意思を集会に参加するという行動によって示したものと言えます。

集会では、ジャーナリストで日本平和委員会常任理事の末浪康司さんが講演され、要旨、“アメリカが戦争することになれば自衛隊が米軍の指揮下に入るとなっているとの日米の「指揮権密約」（1952 年）の存在を明らかにするとともに、敵基地攻撃能力の保有は、アメリカの戦争戦略である IAMD（統合防空ミサイル防衛）に自衛隊を参加させ、日本が攻撃されていなくても米国が他国に先制攻撃した場合に自衛隊が米軍と一体となって先制攻撃に加わるという本質を指摘しました。安保三文書の具体化と並行する形で国会の憲法審査会で緊急事態条項の憲法への明記を狙う議論が進められていることも注視しなければならない”と強調され、“今が正念場、力を合わせて憲法を守ろう”と呼びかけました、

政党からは社民党、新社会党、日本共産党、れいわ新選組が参加し連帯の挨拶を述べました。市民運動からは、若者憲法集会の大学生、舞鶴平和委員会、原発反対運動の市民の三者がスピーチされ、集会終了後、京都市役所までアピールデモを行いました。

（文責・竹中寛治）

京都支部第57回定期大会報告(5/14)

代表幹事 前田耕治

5月14日に、京都支部の定期大会がオンラインで開催された。事前の案内では龍谷大学を会場とするハイブリッド開催であったが、緊急の事情で完全オンライン開催となったことをお詫びいたします。

定期大会に先立って、下記の基調講演が10時半から行われた。

「福島原発事故から12年～甲状腺がん多発の原因は原発事故～」

講師 大倉弘之氏(福島原発事故による甲状腺被ばくの真相を明らかにする会、京都工芸繊維大学名誉教授)

福島県県民健康調査の結果をもとに、小児甲状腺がんの多発が福島第1原発事故に起因していることが統計的に明らかであることを解説した。とくに、日本の学者も参画している国連科学委員会UNSCEARが「小児甲状腺がんの多発はスクリーニング効果や過剰診断のせいであり原発事故の影響はない」とした結論の誤りを、検査データをもとに詳しく解説した。

大倉氏は、『日本の科学者』のほか、「真相を明らかにする会」が発行したUNSCEAR批判のブックレットなどでも解説しているので、詳しくはそちらの著作を参照していただきたい。とくに、最近刊行されたブックレットは、下記のサイトで入手できる。

福島原発事故による甲状腺被ばくの真相を明らかにする会 著

『チェルノブイリ並み被ばくで多発する福島甲状腺がん』

『福島甲状腺がん多発一被ばく原因はもはや隠せない』

PDF版購入サイト(耕文社)

<https://www.yondemill.jp/labels/241>

午後からは定期大会に移った。冒頭、代

表幹事から、会員拡大、会員のポテンシャルの引き出し、支部幹事会の強化の3点について現状と課題が述べられた。

大会は、奥西会員が議長を務めて、出席者16名、委任状84通による過半数の会員の出席で成立した。事前に配付された議案にもとづいて、2022年度活動報告、2023年度活動方針、2022年度決算・会計監査、2023年度予算が出席者の賛成多数で承認された。以下、出席者から出された意見を記す。(ウクライナ情勢について)1年以上続く戦争は双方が引かずに泥沼化している。停戦に向けて解決の方策を考えていくべきではないか。

(会員拡大について)退職教員は若い人との接点がないので、現役教員の役割が重要である。支部内の現役教員をつかんで、大学内での会員拡大に努力すべきではないか。

(支部活性化について)オンラインが定着して対面での活動の出席が難しくなっている。企画のやり方や事前広報の方法などを工夫すべきである。

(『日本の科学者』の活用について)同誌の市民への普及と入会への契機を目指して、一般書店や大学生協での販売、大学図書館への配架などを行うべきである。

執行部からは、以上の意見を支部幹事会あるいは全国大会で生かしていきたいと回答した。

最後の議案として、次年度の支部幹事・会計監査が提案され、承認された。支部幹事は立命館大学からの新任幹事を含めて12名が承認された。議長が議事終了を宣言したあと、次期幹事から一言ずつ挨拶があった。昨年度は比較的若いシニア会員2名が

支部幹事に加わったが、今年は久しぶりに
現役教員が支部幹事に加わることとなった。
JSAの役割を十分に発揮できるよう、支部全
体のポテンシャルを引き出せるよう頑張りたい。
支部会員の皆様には引き続きご支援とご
協力をお願いいたします。

支部主催行事案内

1. 京都支部5月読書会（ZOOM）

期間:5月23日(火)15:30～17:30

特集 2023年4月号「科学を戦争の道具にさせないために」

担当: 河村論文(前田)／小金澤論文(大倉)／坂本論文(坂本) + 政宗氏

<https://us06web.zoom.us/j/82711732809?pwd=RmdVVHRScjhHYUJhVVc2bmNtVU4vZz09>

ミーティングID: 827 1173 2809

パスコード: 156026

◆◆◆ 支部幹事会だより ◆◆◆

1. 会員の現況（5月1日現在）

一般会員： 169 （△ 休会4人）

特別会費会員： 3

家族割り特別会費会員： 2

若手会員： 11 （△ 休会2人）

【会員合計】 185人

読者： 3人

2. 会費納入状況（4月30日現在）

一般 68/170（前納の6人を含む），特別 0/3，家族 0/2，若手2/11

2021年度納入者（2022年度は納入）一般 1

3. 月次決算（年度決算も同じ数値）

2023年4月決算

4月收入合計 928,078 円

4月支出合計 200,085 円

4月分収支 727,993 円

前月繰越金 200,451 円

4月末残高 928,444 円